帳-201-026-001-20221001

整理番号

医学系研究に関する情報公開について

西暦　　2025 年 12　月 1 日作成

下記の研究は、福岡リハビリテーション病院の医療倫理委員会から承認され、病院長の許可を得て実施するものです。
本研究の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にお問い合わせください。

研究課題名	術前の強い痛みを有する肩腱板断裂に関連する因子
当院の研究責任者（所属）	花田弘文（福岡リハビリテーション病院）
研究期間	病院長許可日　～　西暦 2026　年 12　月 31　日
調査データの該当期間	西暦　2020　年　1 月 1 日 ～　西暦 2025 年 10 月 16 日
研究対象となる方	2020 年 1 月から 2022 年 12 月までに福岡リハビリテーション病院で肩鏡視下腱板修復術を受けた患者
研究の意義と目的	肩腱板断裂患者の痛みの程度は症例による異なる。強い痛みを生じる肩腱板断裂患者の多くは、保存療法に抵抗性を示す。 そのため、強い痛みを生じる肩腱板断裂の特徴が分かれば、肩腱板断裂患者により適した治療プランを早期に提案できるか もしれない。過去に肩腱板断裂患者の痛みに関連する様々な因子が調査されてきているが、いまだ不明な点が多い[1-9]。 類似研究において Park らは、疼痛を安静時痛、動作時痛、夜間痛に細分化した上で評価することができなかったという問題 点を述べている[9]。福岡大学病院および福岡リハビリテーション病院では安静時、動作時、夜間時の 3 種の疼痛データを通 常診療の中で蓄積してきた。このデータを用いれば、強い痛みを生じる肩腱板断裂の特徴をより詳細に明らかにできるかも しれない。本研究の目的は、術前の強い痛みを有する肩腱板断裂に関連する因子を明らかにすることである。 1. Dunn WR, Kuhn JE, Sanders R, et al. Symptoms of pain do not correlate with rotator cuff tear severity: a cross-sectional study of 393 patients with a symptomatic atraumatic full-thickness rotator cuff tear. J Bone Joint Surg Am. 2014;96(10):793-800. 2. Fukuda H. Partial-thickness rotator cuff tears: a modern view on Codman's classic. J Shoulder Elbow Surg. 2000;9(2):163-8. 3. Fukuda H. The management of partial-thickness tears of the rotator cuff. J Bone Joint Surg Br. 2003;85(1): 3-11. 4. Gotoh M, Hamada K, Yamakawa H, Inoue A, Fukuda H. Increased substance P in subacromial bursa and shoulder pain in rotator cuff diseases. J Orthop Res. 1998;16(5):618-21. 5. Gumina S,

	Candela V, Passaretti D, et al. Intensity and distribution of shoulder pain in patients with different sized postero-superior rotator cuff tears. J Shoulder Elbow Surg. 2014;23(6):807-13. 6. Jeong J, Shin DC, Kim TH, Kim K. Prevalence of asymptomatic rotator cuff tear and their related factors in the Korean population. J Shoulder Elbow Surg. 2017;26(1):30-5. 7. Kim YS, Bigliani LU, Fujisawa M, et al. Stromal cell-derived factor 1 (SDF-1, CXCL12) is increased in subacromial bursitis and downregulated by steroid and nonsteroidal anti-inflammatory agents. J Orthop Res. 2006;24(8):1756-64. 8. Kindler LL, Valencia C, Fillingim RB, George SZ. Sex differences in experimental and clinical pain sensitivity for patients with shoulder pain. Eur J Pain. 2011;15(2):118-23 9. Park I, Lee HJ, Kim SK, Park MS, Kim YS. Factors Related to Preoperative Shoulder Pain in Patients with Atraumatic Painful Rotator Cuff Tears. Clin Shoulder Elb. 2019 Sep 1;22(3):128-134
研究の方法	対象の患者データを後ろ向きに調査する。術前に得られた安静時、動作時、夜間時の疼痛は、視覚的アナログスケール（Visual Analog Scale、以下 VAS）（範囲、0～100mm）に関する質問票から得られたデータ。術前の強い痛み（VAS＞ 80mm）のリスク因子を評価する。予測因子の候補；年齢、断裂形態（不全断裂、翻転タイプ、Reverse L タイプ）（術中所 見による分類）、拘縮の合併、外傷契機
研究に用いる試料・情報	情報（内容：診療録、検査データ、画像データ）: 年齢、性別、手術前、外傷の有無、発症から手術までの期間、喫煙歴、糖尿病の有無、高脂血症の有無、手術前の疼痛（VAS）、関節可動域、臨床スコア（JOA score、UCLA socre、simple shoulder test）、術後 1 年時点での再断裂率、術 後 2 年時点での疼痛（VAS）、関節可動域、術前臨床スコア（JOA score、UCLA socre、simple shoulder test）
外部への試料・情報の提供	あり(福岡大学医学部)
個人情報の取り扱い	利用する情報は、匿名化（どのデータが誰のものかをわからなくすること）をします。個人情報を厳重に保護し、研究成果は学会等で発表を予定していますが、その際も個人が特定されない形式で行います。
本研究の資金源 （利益相反）	本研究に関連し開示すべき利益相反にある企業等はありません。
お問い合わせ先	福岡リハビリテーション病院　所属　整形外科 担当者:　花田 弘文 電話: 092-812-1555（代表） 対応可能時間 平日 9:00～17:00